クラス（　　）番号（　　）名前（　　）

1 節 ヨーロッパとアメリカの諸革命

★このプリントは解説スライドを含め授業 2 時間分の学習に相当します。

4 ナポレオン戦争

教科書 p. 86-87

Q．ナポレオンが果たした歴史的役割（成果と課題）とは何か？

☆作業 1<知識と理解>教科書を参照しながら、空欄を埋めなさい。

■総裁政府からナポレオンへ

①総裁政府の成立――テルミドールの反動後成立→社会的・政治的不安増大

②ナポレオン・ボナパルトの登場――第 2 回対仏大同盟結成（1799）→エジプト遠征から帰国→〔①　　〕（1799.11.9）で〔②　　〕を樹立，第一統領に就任

■帝政の成立

①国家体制の改革――〔③　　〕の設立による財政整備,〔④　　〕の制定（1804）（農民の土地所有権を確立して革命の成果を保証）

②帝政の開始（1804）――〔⑤　　〕を実施→皇帝に就任

■革命の拡大と輸出

革命戦争の影響――近隣諸国に新しい思想・制度を拡大

（ア）〔⑥　　〕・スイス――新しい共和国成立

（イ）イタリア――〔⑦　　〕の圧力を脱して複数の共和国成立

■イギリスとの争覇

①英仏の争いの性格――17 世紀以来の植民地争奪戦の総決算

②イギリスが〔⑧　　〕（1805）で勝利→ナポレオンは〔⑨　　〕発令（1806）（イギリス産業への打撃とフランスの市場拡大が目的）

■スペインの抵抗とプロイセンの改革

①諸国の支配体制の動揺――〔⑩　　〕の解体（1806）

②各地の反抗――〔⑪　　〕などで農民が反抗

③〔⑫　　〕の改革――農民解放・軍制改革など国家による改革

④ナショナリズムの高揚――ドイツや東ヨーロッパで民族統一・国民形成を求める→土着の言語・文化に関心→〔⑬　　〕の潮流を生む

■モスクワからワーテルローへ

ナポレオンの没落――〔⑭　　〕失敗（1812）→〔⑮　　〕の戦いで敗北→ナポレオン退位，エルバ島に流される（1814）→翌年復位→〔⑯　　〕の戦い（1815）で敗北→孤島〔⑰　　〕に流される

以下の表は、ナポレオンの主な取り組み（成果や課題を含む）を示したものである。

国内

＜第一共和政・統領政府期＞財政再建

1800.2.　中央銀行：**フランス銀行**の創立

停滞していた経済活動の活性化を促した。

＜第一共和政・統領政府期＞**宗教協約（コンコルダート）**

フランス革命勃発時には、旧制度における教会の圧政に反発し教会財産の没収などの措置が取られた。しかしナポレオンはその支配を安定させるために、従来の革命政府の反教会政策を転換させた。

1801.7.　ローマ教皇との間で修好条約が締結された。→フランス革命以来断絶していたカトリック教会との関係修復。キリスト教信仰を持つ国民の支持をとりつけた。

＜第一共和政・統領政府期＞ナポレオン法典

1804.3 **ナポレオン法典**発布

・信仰や労働の自由　・私的所有権の絶対性

・契約の自由　・妻が夫に服従する義務

近代市民社会の法の規範となり、「ハンムラビ法典」「ローマ法大全」とならび世界の大法典の一つといわれるようになる。

国外

＜第一共和政・総裁政府期＞イタリア遠征

1796.3.　ナポレオン、司令官としてイタリア遠征

1797.10.オーストリア軍に勝利：**カンポ=フォルミオの和約**

フランスはライン川左岸と、オーストリア領ネーデルラント（南ネーデルラント、後のベルギー）などを獲得。またオーストリアは、ナポレオンが北イタリア（ミラノ）に作ったチサルピナ共和国を承認した。これにより**第一回対仏大同盟が解消**された。

＜第一共和制政・総裁政府期＞エジプト遠征

1798.5.　ナポレオン、エジプト遠征開始

目的は対イギリス戦略。イギリスの「インドへの道」を断ち切り、経済に打撃を加え、フランス植民地を獲得しようとしたもの。エジプト上陸までは成功したが、ネルソン率いるイギリス海軍相手に苦戦した。一方多くの学者を伴い、学術遠征の側面もあった。学術調査中には一兵士により**ロゼッタストーン**が発掘された。

1799.6.　イギリス　**第二回対仏大同盟結成**

1799.10.　ナポレオンフランスに逃げ帰り、フランス軍は降伏

＜第一帝政期＞大陸封鎖令

1805.10.　**トラファルガーの海戦**にてフランス・スペイン連合艦隊がイギリス海軍に撃破され制海権を取られる。

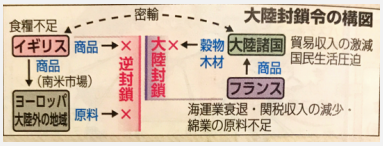
1805.12.　**アウステルリッツの三帝会戦**にてオーストリア・ロシア軍を敗る。フランスはヨーロッパ大陸に大きな支配権を獲得した。

1806.10 **イエナの戦い**にてプロイセン軍を破り、ティルジット条約を結びナポレオンの大陸支配が決定的となった。

1806.11.　**大陸封鎖令**

ナポレオンはイギリス本土上陸作戦を断念し、経済的に打撃を与える政策に転換した。先進工業国イギリスに対抗し、フランスによるヨーロッパ市場の独占を目的とし、ヨーロッパの征服地に対してイギリスとの貿易を禁止した。また、イギリス工業製品がフランスに入ってこなくなることによって、フランスの諸工業の自立・発展を図る目的もあった。しかし、イギリスへの穀物輸出が重要なロシアはこれに離反。その他の諸地域でもフランスによる強制的な締め付けに反発した。また、イギリスによるヨーロッパ大陸外の地域の逆封鎖により、ヨーロッパ大陸の経済も打撃を受けた。

↓『ニューステージ世界史詳覧』浜島書店　(P.198)より



＜第一帝政期＞1807.10.**プロイセン改革**開始

イエナの戦いで敗れ、ティルジット条約でフランスに対し大きな譲歩を余儀なくされたプロイセン王国は、敗戦の原因は封建的体制にあるとし国制の近代化を目指す改革を行った。農民解放令による身分制改革や内閣制の確立などの行政機構改革、都市自治の拡充などの地方行政改革、営業の自由・国内関税の廃止・税制見直しなどの経済改革などが進められた。この改革はドイツの国民意識を喚起し、ドイツ人の愛国心を呼び起こすことにつながった。

＜第一帝政期＞**スペイン反乱**

1808.5.　ナポレオンはスペインの直接統治を目論みフランス軍を派遣するが、スペイン民衆が各地で蜂起。これはフランス軍により鎮圧され、数百人のスペイン民衆が銃殺される（教科書P.87資料④参照）。フランス軍は傍若無人に行動し、各地で略奪や破壊を繰り返したが、1813年にナポレオンのロシアでの敗北とともにスペインのフランス軍も劣勢に陥り、撤退した。

☆作業2＜知識と理解＞ナポレオンにより実施された政策の成果（評価できる点）は何か。教科書と上記の表の知識を活用し、国内・国外に分けて述べなさい。

＜国内＞

＜国外＞

☆作業3＜応用と分析＞

革命の申し子としてのナポレオンの評価は「解放者」と「侵略者」の二つの側面があるといわれている。それぞれどのような側面で、「解放者」「侵略者」と呼べるのか、教科書と上記の表の知識から具体的な歴史的事実を例に挙げ、説明しなさい。